

# 和歌でない歌

中島敦

青空文庫



遍歴

ある時はヘーゲルが如萬有をわが體系に統<sup>す</sup>べんともせし

ある時はアミエルが如つゝましく息をひそめて生きんと思ひし

ある時は若きジイドと諸共に生命に充ちて野をさまよひぬ

ある時はヘルデルリンと翼<sup>はね</sup>竝<sup>は</sup>べギリシヤの空を天翔りけり

ある時はフィリップのごと小<sup>ち</sup>さき町に小<sup>ち</sup>さき人<sup>ひと</sup>々を愛せむと思ふ

ある時はラムボーと共にアラビヤの熱き砂漠に果てなむ心

ある時はゴツホならねど人の耳を喰ひてちぎりて狂はんとせし

ある時は淵<sup>えんめい</sup>明<sup>めい</sup>が如疑はずかの天命を信ぜんとせし

ある時は觀<sup>イデア</sup>念の中に永遠を見んと願ひぬプラトンのごと

ある時はノワールリスのごと石に花に奇しき祕文を讀まむとぞせし

ある時は人を厭ふと石の上に黙<sup>もだ</sup>もあらし達磨の如く

ある時は李白の如く酔ひ酔ひて歌ひて世をば終らむと思ふ

ある時は王維をまねび寂<sup>じやく</sup>として幽篁<sup>うち</sup>の裏にひとりあらなむ

ある時はスウィフトと共にこの地球の Yahoo 《ヤフー》 共をば憎みさげすむ  
ある時はヴェルレエヌの如雨の夜の巷に飲みて涙せりけり  
ある時は阮籍げんせきがごと白眼に人を睨みて琴を弾ぜむ  
ある時はフロイドに行きもろ人の怪あやしき心理こころさぐらむとする  
ある時はゴーガンの如逞なまましき野生のいのちに觸ればやと思ふ  
ある時はバイロンが如人の世の掙おきて踏躡り呵々と笑はむ  
ある時はワイルドが如深き淵に墮ちて嘆きて懺悔せむ心  
ある時はヴィヨンの如く殺あやめ盗み寂しく立ちて風に吹かれなむ  
ある時はボードレエルがダンディズム昂然として道行く心  
ある時はアナクレオンとピロンのみ語るに足ると思ひたりけり  
ある時はパスカルの如心いたため弱き蘆をば讚ほめ憐れみき  
ある時はカザノワのごとをみな子の肌をさびしく尋とめ行く心  
ある時は老子のごとくこれの世の玄のまた玄空しと見つる  
ある時はゲエテ仰ぎて吐息しぬ亭々としてあまりに高し  
ある時は夕べの鳥と飛び行きて雲のはたてに消えなむ心

ある時はストアの如くわが意志を鍛へんとこそ奮ひ立ちしか  
 ある時は其角の如く夜の街に小傾城などなぶらん心  
 ある時は人麿のごと玉藻なすよりにし妹をめぐしと思ふ  
 ある時はバツハの如く安らけくたゞ藝術に向はむ心  
 ある時はテイチアンのごと百年ももとせの豊けきいのち生きなむ心  
 ある時はクライストの如われとわが生命を燃して果てなむ心  
 ある時は眼・耳・心みな閉ぢて冬ふゆへび蛇のごと眠らむ心  
 ある時はバルザツクの如コーヒーを飲みて猛然と書きたき心  
 ある時は巢父の如く俗説を聞きてし耳を洗はむ心  
 ある時は西行のごと家をすて道を求めてさすらはむ心  
 ある時は年老い耳も聾しひにけるベートーベンを聞きて泣きけり  
 ある時は心咎めつゝ我の中のイエスを逐ひぬピラトの如く  
 ある時はアウグステインが灼熱の意慾にふれて焼かれむとしき  
 ある時はパオロに降おりし神の聲我にもがもとひたに祈りき  
 ある時は安逸の中ゆ仰ぎ見るカントの「善」の嚴いっくしかりし

ある時は整然として澄みとほるスピノザに來て眼をみはりしか  
ある時はワレリイ流に使ひたる悟性の鋭き刃身をきずつけし  
ある時はモツアルトのごと苦しみゆ明るき藝術を生まばやと思ふ  
ある時は聰明と愛と諦觀をアナトオル・フランスに學ばんとせし  
ある時はステイヴンソンが美しき夢に分け入り酔ひしれしこと  
ある時はドオデエと共にプロワンスの丘の日向に微睡みにけり  
ある時は大雅堂を見て陶然と身も世も忘れ立ちつくしけり  
ある時は山賊多きコルシカの山をメリメとへめぐる心地  
ある時は繩目解かむともがきあるプロメシユウスと我をあはれむ  
ある時はツアラツストラと山に行き眼銳るどの驚と遊びき  
ある時はファウスト博士が教へける「行爲によらで汝は救はれじ」  
へめぐ  
遍歴りていづくにか行くわが魂ぞはやも三十に近しといふを

憐れみ讚ふるの歌

ぬばたまの宇宙の闇に一とこり明るきものあり人類の文化

玄々たる太沖の中に一とこゝろ温かきものありこの地球の上に  
 おしなべて暗昧きが中に燦然と人類の叡智光るたふとし  
 この地球の人類の文化の明るさよ背後の闇に浮出て美し  
 たとふれば鑛脈にひそむ琅玕か愚昧の中に叡智光れる  
 幾萬年人生れ繼ぎて築きてしバベルの塔の崩れむ日はも  
 人間の夢も愛情も亡びなむこの地球の運命かなしと思ふ  
 學問や藝術や叡智や戀愛情この美しきもの亡びむあはれ  
 いつか來む滅亡知れば人間の生命いや美しく生きむとするか  
 みづからの運命知りつゝなほ高く上らむとする人間よ切なし  
 弱き蘆弱きがまゝに美しく伸びんとするを見れば切なしや  
 人類の滅亡の前に凝然と懼れはせねど哀しかりけり  
 しかすがになほ我はこの生を愛す喘息の夜の苦しかりとも  
 あるがまゝ醜きがまゝに人生を愛せむと思ふ他に途なし  
 ありのまゝこの人生を愛し行かむこの心よしと領きにけり  
 我は知るゲエテ・プラトン悪しき世に美しき生命生きにけらずや

吃<sup>きつ</sup>として霜柱踏みて思ふこと電<sup>でん</sup>光<sup>くわう</sup>影<sup>えい</sup>裡<sup>り</sup>如何に生きむぞ

石とならまほしき夜の歌 八首

石となれ石は怖れも苦しみも憤<sup>い</sup>りもなけむはや石となれ

我はもや石とならむず石となりて冷たき海を沈み行かばや

氷雨降り狐火燃えむ冬の夜にわれ石となる黒き小石に

眼<sup>め</sup>瞑<sup>と</sup>づれば氷の上を風が吹く我は石となりて轉<sup>まろ</sup>びて行くを

腐<sup>う</sup>れたる魚<sup>を</sup>のまなこは光なし石となる日を待ちて我がある

たまきはるいのち寂しく見つめけり冷たき星の上にわれはゐる

あな暗<sup>くら</sup>や冷たき風がゆるく吹く我は墮<sup>お</sup>ち行くも隕<sup>いん</sup>石のごと

なめくぢか蛭のたぐひかぬばたまの夜の闇<sup>くら</sup>處<sup>と</sup>にうごめき晒<sup>わら</sup>ふ

また同じき夜によめる歌 二首

ひたぶるに凝<sup>み</sup>視<sup>つ</sup>めてあれば卒<sup>そつ</sup>然<sup>ぜん</sup>として距離<sup>きょり</sup>の観<sup>くわん</sup>念<sup>ねん</sup>失<sup>な</sup>くなりけり

大<sup>だい</sup>小<sup>せう</sup>も遠<sup>えん</sup>近<sup>きん</sup>もなくほうけたり未<sup>み</sup>生<sup>しやう</sup>の我<sup>われ</sup>や斯<sup>す</sup>くてありけむ



## 夢

何者か我に命じぬ割り切れぬ敷を無限に割りつゞけよと

無限なる循環小數いでてきぬ割れども盡きず恐しきまで

無限なる空間を墮ちて行きにけり割り切れぬ敷の呪を負ひて

我が聲に驚き覺めぬ冬の夜のネルの寢衣に汗のつめたさ

無限てふことの恐こさ夢さめてなほ暫らくを心慄へる

この夢は幼き時ゆいくたびかうなされし夢恐しき夢

今思へば夢の中にてこの夢を馴染の夢と知れりし如し

ニイチエもかゝる夢見て思ひ得しかツアラツストラが永劫回歸

むかしわれ翅をもぎける蟋蟀が夢に來りぬ人の言葉きゝて

何故か生理にされ叫べども喚けど呼べど人は來らず

叫べども人は來らず暗闇に足の方より腐り行く夢

夢さめて再び眠られぬ時よめる歌  
 何處どこやらに魚族いさぐづめら奴等が涙する 燻製くんせいにほふ夜半よはは乾かわきて

## 放歌

我が歌は拙つたなかれどもわれの歌他ことびとならぬこのわれの歌  
 我が歌はをかしき歌ぞ人麿も憶良もいまだ得詠よまぬ歌ぞ  
 我が歌は短冊に書く歌ならず街を往ゆきつゝメモに書く歌  
 我が歌は腹しこものの醜あさま物朝泄かはやると厠かはやの窓の下に詠む歌  
 我が歌は吾とほが遠とほつ祖おやサモスなるエピクロス師にたてまつる歌  
 我が歌は天子呼べども起きぬてふ長安の酒徒に示さむ歌ぞ  
 我が歌は冬の夕餐ゆふげの後のちにして林檎食をしつゝよみにける歌  
 わが歌は朝あしたの瓦斯ガスにモカとジャワのコーヒー煮につゝよみにける歌  
 わが歌はアダリンきかずいねられぬ小夜更床さよふけどこによみにける歌  
 わが歌は呼吸いき迫りきて起きいでし暁あけの光に書きにける歌

わが歌は麻痺劑強みツキくと痛む頭に浮かびける歌  
 わが歌はわが胸の邊の喘鳴をわれと聞きつゝよみにける歌

身體の弱きに甘えふやけるわれの心を蹴らむとぞ思ふ

手・足・眼とみな失ひて硝子箱に生きある人もありといはずや

ゲエテてふ男思へば面にくし口惜しけれどもたふとかりけり

織く勁く太く艶ある彼の聲の如き心をもたむとぞ思ふ (シヤリアーピンを聞きて)

ゴツホの眼モツアルトの耳プラトンの心兼ねてむ人はあらぬか



# 青空文庫情報

底本：「中島敦全集第二卷」筑摩書房

1976（昭和51）年5月25日初版第1刷発行

1976（昭和51）年12月25日初版第3刷発行

底本の親本：「中島敦全集第三卷」筑摩書房

1949（昭和24）年

入力：川向直樹

校正：門田裕志、小林繁雄

2005年1月5日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 和歌でない歌

中島敦

2020年 7月17日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>